

平成17年度プロジェクト研究評価報告

プロジェクト研究課題名	食料フローモデルによる消費者・実需者ニーズの変化に対応した安定的な食料供給システムの確立に関する研究
研究実施期間	平成18年度～20年度
プロジェクト研究の概要	<p>主要な食料品について国産・輸入農産物が消費者や実需者に至るまでの経路や数量を明らかにし、わが国の食料供給システムを総合的・体系的に整理したモデルを構築する。わが国の少子高齢化の進展、国際的な食料需給の変化等、いくつかのシナリオを想定して、食料の生産構造と消費構造への影響とその対応策を検討し、消費者・実需者ニーズの変化に対応した国産農産物の供給増加と、安定的な食料供給システムの確立のための効果的な施策のあり方を解明する。</p>
<p>評価結果</p> <p>評価会議名及び開催日 (書面評価)</p> <p>評価委員名 平尾正之 (東京農業大学教授) 上原征彦 (明治大学大学院教授) 下渡敏治 (日本大学大学院教授)</p> <p>評価基準 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い (研究計画の妥当性のみ A：妥当 B：概ね妥当 C：見直しが必要 D：妥当でない)</p> <p>総合評価基準 1．課題は重要であり、 内容は適切 2．課題は重要であるが、 内容の見直しが必要 3．課題は不適切</p>	<p>【評価項目ごとの評価】( )は3名の評価委員の投票数を示す。</p> <p>&lt;必要性&gt; 政策の企画・立案への貢献：A評価(3) 社会的ニーズへの対応：A評価(3) 新規性・独創性：A評価(1)、B評価(2)</p> <p>&lt;効率性&gt; 研究計画の妥当性：A評価(1)、B評価(2)</p> <p>&lt;有効性&gt; 研究目標の達成可能性：A評価(1)、B評価(2)</p> <p>&lt;優先性&gt; 次年度に着手すべき緊急性：A評価(3)</p> <p>【総合評価】 課題は重要であり、内容は適切(3)</p> <p>【評価委員からの主な意見】 食料自給率の維持向上のための効果的な施策立案に必要な基礎情報を提供する、食料フローモデルの開発を主体とした重要な研究である。施策のあり方を評価できる操作性の高いモデル開発が鍵となる。3年間の年次計画を明確にして、課題間の連携をとることが重要である。</p> <p>品目を重要なものに絞って詳細にトレースしていくことが望ましい。従来の流通経路調査との差別化と、どこまで詳細にするかを明らかにする必要がある。</p> <p>地球規模での環境劣化や食料の生産変動といった外的条件変化と人口減少社会への移行といった内的条件変化が顕著となる中で、それらの変化を総合的に検証し、今後のわが国のあるべき食料供給システムの確立と効果的な施策のあり方を導きだすうえで不可欠の研究プロジェクトである。多岐に亘って解決すべき多くの問題点を含んでおり、緊急に取り組むべき課題である。</p>
今後の対応方針	<p>研究の年次計画を明確にし、各課題の連携を十分とりつつ、操作性の高いモデルを開発するものとする。</p>

対象を重要な食品・農産物に重点化し、流通経路を詳細に明らかにする。その上でこれら以外の品目を含め総合的なモデルを構築する。

課題の緊急性に対応するために、中間成果の取りまとめと行政への説明を随時速やかに実行していくこととする。